氏　　名	植　嶋　一　宗
授与した学位	博　　士
専攻分野の名称	医　　学
学位授与番号	博甲第　4215　号
学位授与の日付	平成２２年　９月３０日
学位授与の要件	医歯薬学総合研究科社会環境生命科学専攻 （学位規則第４条第１項該当）
学位論文題目	Physical Activity and Mortality Risk in the Japanese Elderly: A Cohort Study （日本の高齢者における運動と死亡リスクの関連性に関するコホート研究）
論文審査委員	教授　荻野 景規　教授　光延 文裕　准教授　和田　淳

学位論文内容の要旨

疾患を有する老人に対して推奨する運動の種類と頻度に関する十分な知見は得られていない。本研究では、複数の運動の種類(歩行、運動、体を動かす作業)に関する頻度の情報を得て、死因別死亡リスクを推定した。対象者として静岡市の 65-84 歳の老人 22200 人をランダムに選択し、最終的に 10385 人を解析対象とした。1999 年から 2006 年にかけての死亡を追跡した。共変量で調整した全死因死亡、心血管系疾患(以下 CVD)死亡、癌死亡のハザード比(HR)と 95%信頼区間(以下 95% CI)を推定した。全死因死亡、CVD 死亡はすべての運動により減少した。例として、一週間に 5 日以上体を動かす作業を行う群は同様の作業を行わない群に対して HR は 0.38 (95% CI=0.22, 0.55)であった。疾患の有無により層別しても結果は同様であった。癌死亡と運動の関連性は明らかでなかった。本研究により、疾患を有する高齢者においても運動は有益であることが示唆された。

論文審査結果の要旨

日本人の高齢者コホートを用いて、推奨する運動の種類と全死因死亡、新血管系(CVD)死亡、癌死亡の関連性を検討した。静岡市の 65-84 歳の老人 22,200 人をランダムに選択し、最終的に 10385 人を解析対象とし、1999 年から 2006 年にかけて追跡し、三種類の運動(歩行、運動、体を動かす作業)を一日に 30 分以上行う頻度と死因別死亡リスクを、共変量で調整した全死因死亡、心血管系疾患(以下 CVD)死亡、癌死亡のハザード比(HR)と 95%信頼区間(以下 95%CI)として推定した。結果として、全死因死亡、CVD 死亡はすべての運動により減少した。疾患の有無により層別しても結果は同様であった。癌死亡と運動の関連性は明らかではなかった。結論として、疾患を有する高齢者において運動は有益であることが示唆された。以上より、本研究は、多くの人を対象にし、運動が高齢者に有益であることを証明したコホート研究であり、衛生学・公衆衛生学的に価値ある労作と認められた。
よって、本研究者は博士(医学)の学位を得る資格があると認める。